

「雨水浸透施設の整備促進に関する手引き（案）」について

1. 経過及び手引き作成の趣旨

1) 手引き作成の背景・経過

- 下水道部においては、平成 19 年度より雨水浸透効果の評価方法、目詰まりの影響等による浸透効果の経年変化の把握方法及び維持管理方法等に関する課題について検討を行ってきたところ。
- 河川局においては、平成 17 年度から雨水浸透施設の低水（湧水）保全効果に関しモニタリングやシミュレーションにより定量評価手法の検討を進めてきたところ。
- 本手引きは、雨水浸透施設の整備を促進するために、平成 20 年度から下水道部と河川局が連携して「雨水浸透機能に係わる技術検討会」を設置して、雨水計画等に浸透能力を見込む際の考え方を手引きとしてとりまとめたもの。

2) 手引き作成の目的

本手引きでは、流域全体での雨水浸透効果を概算する簡便な方法を提示するとともに、雨水浸透効果を各種計画に位置づける際の、目詰まりによる能力低減を見込んだ浸透施設設置区域全体での浸透能力の把握手法及び適切な維持管理手法について、現在までの知見に基づきとりまとめることにより、雨水浸透の普及促進を図ることを目的としている。

2. 手引きの構成及び概要

手引きでは、流域全体としての雨水浸透効果を概算で把握する方法や、施設整備にあたっての浸透能力把握手法及び維持管理方法等について紹介している。構成と概要は次のとおり。

第Ⅰ編 共通事項

手引きの目的、下水道・河川に共通な雨水浸透に関する基本的事項を紹介。

第Ⅱ編 雨水浸透効果の概算方法

雨水浸透施設を設置した場合、流域全体としてどのような効果が得られるか、どれだけの施設を設置すれば良いのかを、大まかにかつ簡便に把握する方法を紹介。

第Ⅲ編 雨水浸透施設の整備と維持管理の考え方

雨水浸透施設が整備された区域全体としての浸透能力を、目詰まりによる浸透能力の低減も勘案して設定する方法や、浸透能力を継続して確保していくための適切な維持管理方法、下水道の各種計画における浸透効果の見込み方等、実務的な事項について整理、紹介。

第Ⅳ編 フォローアップ

雨水浸透施設を設置後に、実際に得られている効果を確認するためのモニタリング方法や体制について紹介。